

木材産業の事業者の皆様へ



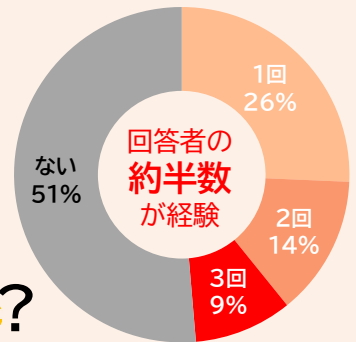
工場火災 対策を！

木材・木製品製造業では、
毎年約**100**件の工場火災
が発生しています。

あなたの工場の火災対策は万全ですか？

👉 裏面の対策のポイントをご覧ください

Q. 過去5年間で工場火災の経験が
何回ありますか？（ボヤも含む）



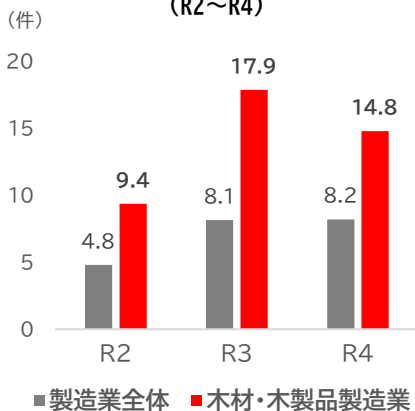
「令和6年度工場火災に関するアンケート」から集計

データで見る木材産業の工場火災 🔍

火災の発生率

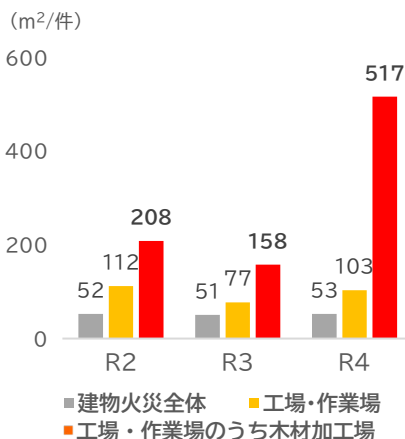
製造業全体の**1.8**倍
(令和4年)

1000事業所あたりの火災発生件数
(R2～R4)



焼損床面積

建物火災全体の**9.8**倍
工場・作業場全体の**5.0**倍
(令和4年)



火災保険料率

火災保険の掛金率は
全工場物件の**4.4**倍



※ 火災件数、焼損床面積は、消防庁提供資料から集計。発生率は、消防庁提供資料及び事業所数（「工業統計」、「経済センサス」、「経済実態構造調査」）から算出。
火災保険料率は、損害保険料率算出機構HPの「火災保険統計」（H30～R4）から算出。

林野庁

協力：NPO法人 日本防火技術者協会



火災対策 3つのポイント

※ ページで使用したグラフは令和6年度に実施した「工場火災に関するアンケート」を集計したものです。

1 出火防止

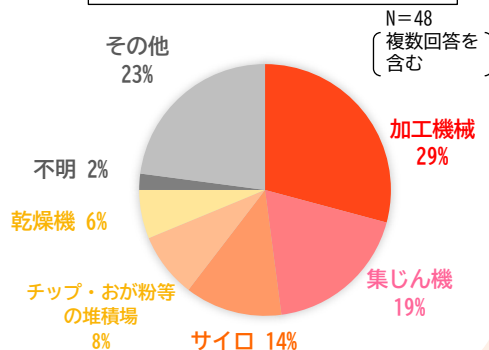
🔍 出火場所の上位は ①加工機械 ②集じん機 ③サイロ

⚠ 機械の周りにおが粉やほこりは溜まっていませんか？
配線器具は古くなっていませんか？

取組のポイント

- まずは徹底的に掃除（4Sの徹底）
- 機械や電気配線・コンセントの定期的な保守点検

Q. 出火の場所はどこですか？



2 早期発見

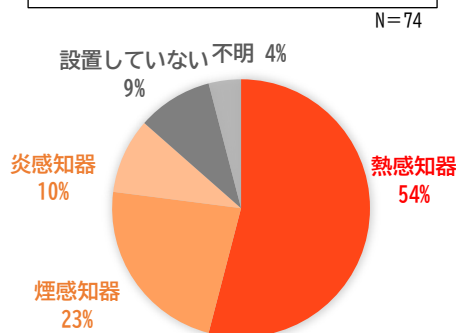
🔍 工場に設置した火災感知器のタイプは、熱感知式が 54%

⚠ 熱感知器は低コストで導入しやすいですが、感知器が作動する段階ではかなり火勢が強くなってしまいうケースがあります。

取組のポイント

- より感度の高い煙感知器や炎感知器の導入の検討（複数タイプの感知器を組み合わせることも効果的）

Q. 工場に設置している火災感知器はどのタイプですか？



3 初期消火

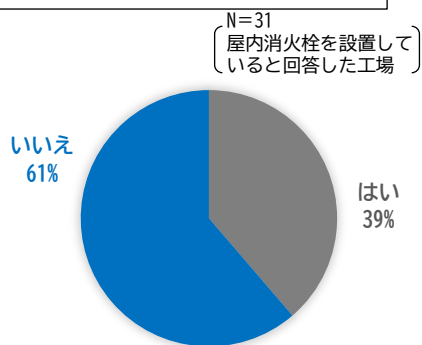
🔍 屋内消火栓を使って消防訓練を行ったことがある工場は 39%

⚠ 屋内消火栓は初期消火に非常に有効です。いざという時のために使い方に慣れておくことが大切です。

取組のポイント

- 屋内消火栓を使用した定期的な消火訓練の実施
- 出火リスクが高い場所に「水バケツ」を設置
- 出火時の対応マニュアルの作成と従業員への周知の徹底

Q. 屋内消火栓を使用した消防訓練を実施していますか？



消防法に基づくルールを再確認しましょう！

- ☑ 工場の規模等に応じて、消防用設備（消火設備、警報設備、避難設備等）の設置が義務付けられています。
- ☑ 一定数量以上の木材加工品及び木くずは、消防法上の「指定可燃物」となり、市町村条例に基づく届出や消火設備の設置等が必要です。